

までの与次右衛門の努力が認められたので  
す。与次右衛門は五十二歳でした。

与次右衛門は、どこへ行くにも、墨すみつば  
に筆を入れた矢立やたてという筆記道具と、帳  
面とをふどころに入れていました。いつで  
も書くことができるように、準備していた  
のです。

いつも、与次右衛門は、田はや畑はを調べて  
は、その結果を記録していました。田には  
いろいろな品種の苗なえをうえて、その育ちぐ  
あいを、こまかにしらべながら、記録しま

